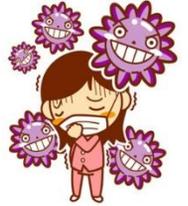




DI ニュース

インフルエンザの季節です！ インフルエンザの検査の注意点



1. インフルエンザの症状が現れて12時間以降経過後の検査が望ましい。

インフルエンザの検査は抗原抗体反応の利用した簡単な方法でできてしまいますが、早すぎると体の中のインフルエンザウイルスが十分な増殖を行っていないために、陽性を示すラインが出ないそうです。ちなみに、体の中のインフルエンザの増殖スピードは8時間後に100個になり、16時間後には百倍の1万個に達するスピードでふえます。

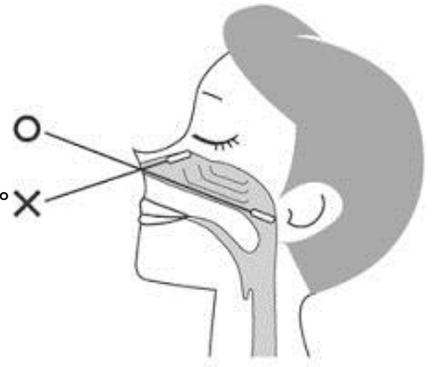
インフルエンザを疑う症状

- ① 突然の発熱
- ② 38°Cを超える発熱
- ③ 上気道炎症状
- ④ 倦怠感等の全身症状



2. 鼻の奥で検体採取をする場合は角度と深さに注意してください。

インフルエンザの検査方法は鼻の奥を綿棒でふかれ、その綿棒は検体処理液に入り採取検体を抽出します。そして、検体処理液は検査キットに滴下され陽性・陰性の判断がされます。痛みは一瞬ですので我慢してもらって下さい。他に以下の採取方法があります。



鼻腔ぬぐい液

鼻腔吸引液

嚙頭ぬぐい液

MEMO

インフルエンザの患者が出ましたら迅速にタミフル投与等の対応をお願いします。

予防投与

タミフル1回1カプセル1日1回 7日間服用

治療

タミフル1回1カプセル1日2回 5日間服用

患者さん発生時、職員の罹患時の対応は院内感染対策マニュアルに書かれているので各部署において確認をお願いします。